

令和3年度
広島県立庄原実業高等学校
マイスター・ハイスクール事業中間報告

令和4年1月26日（水）



1. 目指す姿

- (1) 学校経営計画
- (2) マイスター・ハイスクール事業

2. 今年度の取組

- (1) 体制づくり
- (2) カリキュラムの編成, 実施等
- (3) その他

3. 成果と課題

- (1) 学習プログラム
- (2) 事業評価

4. 次年度に向けて

1. 目指す姿

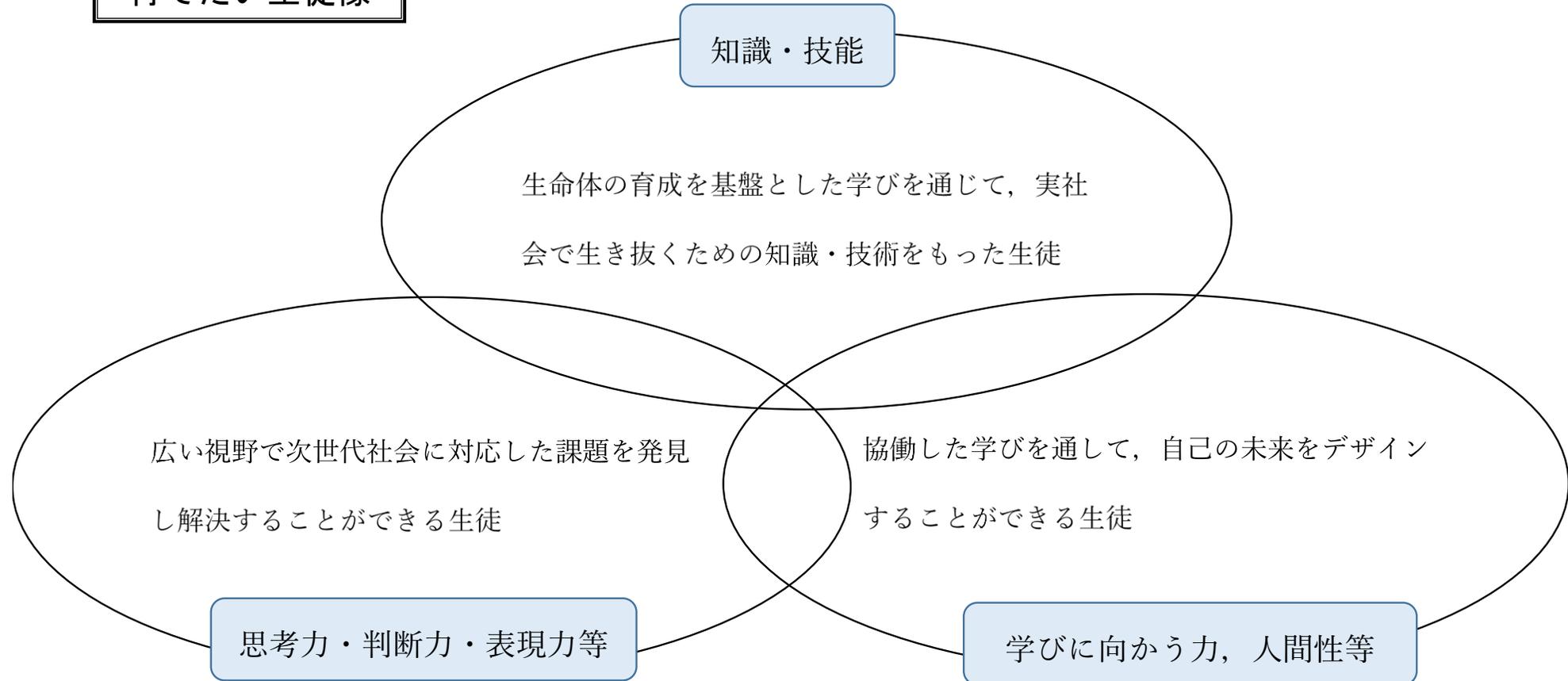
- (1) 学校経営計画
- (2) マイスター・ハイスクール事業

1. 目指す姿 (1) 学校経営計画

教育目標

農業教育を通して新しい価値を創造し、地域、社会に貢献するクリエイターを育成します。

育てたい生徒像



1. 目指す姿 (1) 学校経営計画

様式1

令和3年度学校経営計画

令和3年度～令和5年度(1年目)

校番	91	学校名	広島県立庄原実業高等学校	校長氏名	八幡 茂見	◎・定・通	◎・分
----	----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

1 教育目標

農業教育を通して新しい価値を創造し、地域、社会に貢献するクリエイターを育成します。

2 育てたい(幼児・児童)生徒像

- (1) 生命体の育成を基盤とした学びを通じて、実社会で生き抜くための知識・技術をもった生徒
- (2) 広い視野で次世代社会に対応した課題を発見し解決することができる生徒
- (3) 協働した学びを通して、自己の未来をデザインすることができる生徒

3 中期(3年間)経営目標 ※教育活動その他の学校運営に関する目標

- (1) 社会に貢献できる人材の育成
- (2) 社会をリードする農業教育の充実
- (3) 信頼される学校

4 短期(本年度)経営目標及び行動計画等 ※中期(3年間)経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等

中期(3年間)経営目標

(1) 社会に貢献できる人材の育成

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値(前年度)	目標値
(1) 社会人基礎力を育成する。	○主体的に「今日、就職試験に行くことができる言動」を考える生徒を育成する。	○服装検査において指導を受けた生徒の割合	42.8%	30%
	○3訓「時間厳守・整理整頓・挨拶動行」を実践(徹底)する。	○時間厳守 登校遅刻生徒の割合 ○整理整頓 生徒による学校環境整備週間実施回数 ○挨拶動行 生徒対象アンケートにおける肯定的評価の割合	49.5% 新規 90.9%	30% 5回 95%
(2) 豊かな心を育成する。	○安全・安心な学校づくりを推進する。 ○図書室の主体的な利用を促進する。	○生徒個別面談週間における面談実施回数 ○一人当たりの年間貸出冊数	新規 新規	6回※ 0.5冊
(3) 進路実績を向上させる。	○生徒の希望進路を実現する。	○第1希望達成率	89.1%	90%
	○学科特性に適した進路を実現する	○学科特性に適した進路実現を果たした生徒の割合	55.6%	50%

※3年生は5回とする。

中期(3年間)経営目標

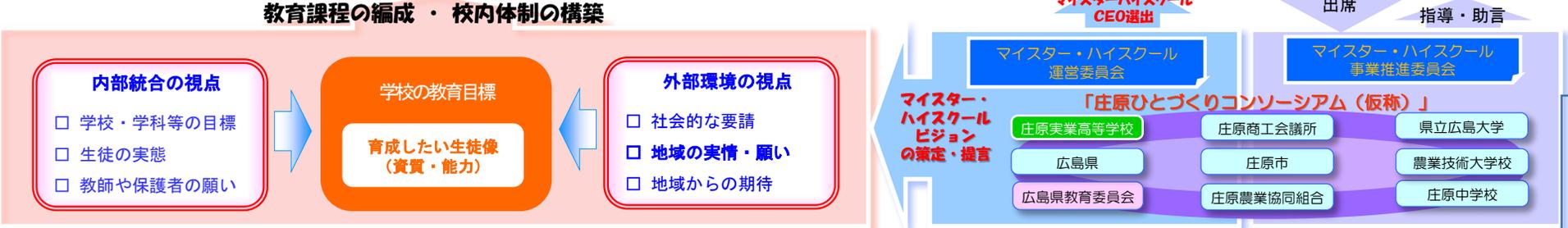
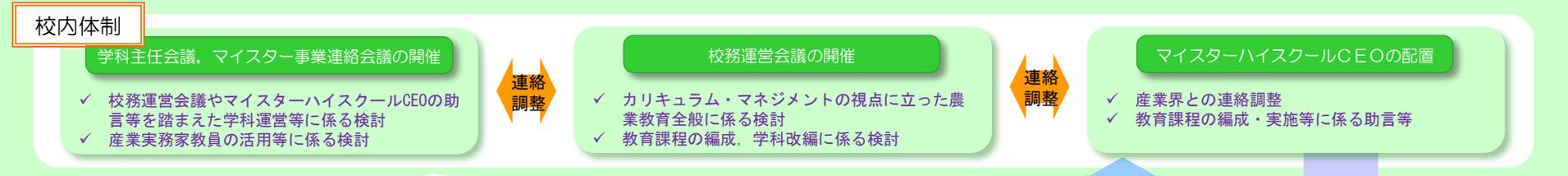
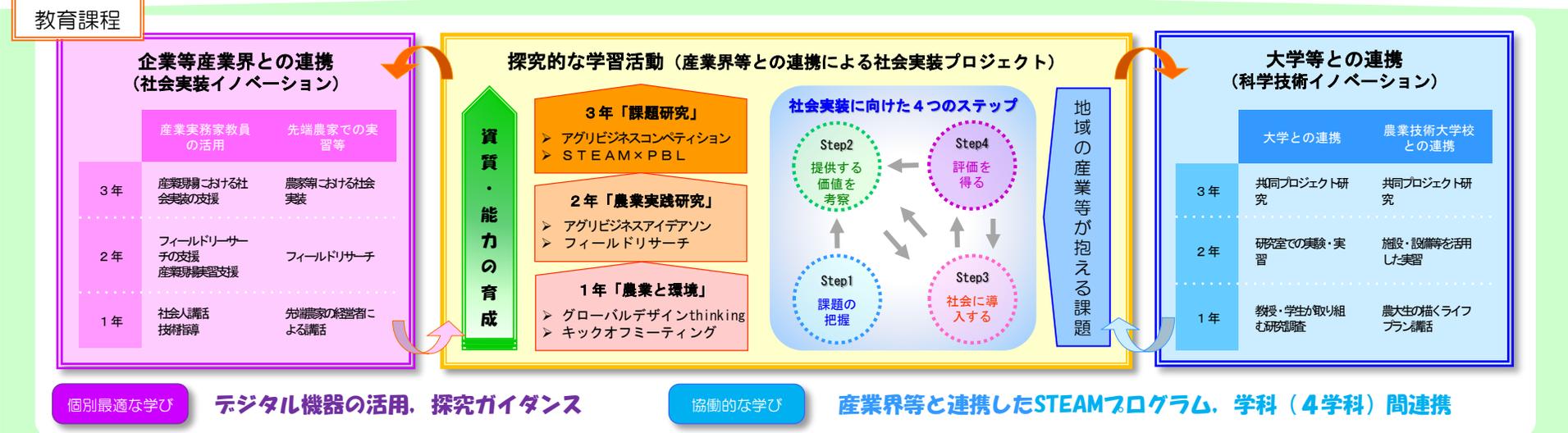
(2) 社会をリードする農業教育の充実

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値(前年度)	目標値
(4) 主体的で深い学びを実践する。	○PBLを全学科において展開する。 ○アグリマイスタープラチナを取得させる。	○専門科目におけるPBL実施率 ○アグリマイスタープラチナ取得生徒数	新規 1名	95% 4名以上
(5) 地域と協働した教育を実践する。	○キャリア教育と教科横断的な学習を関連付けた教育課程を実践する。 ○地域の産学官と連携した教育活動を実践する。	○庄実版デュアル派遣実習生の事後アンケートにおける肯定的評価の割合	90.0%	80%
		○インターンシップ実習生の事後アンケートにおける肯定的評価の割合	90.0%	80%
		○教科横断的な授業実践を行った科目数	新規	3科目
		○地域の産学官との協働研究数	7件	8件
		○地域との交流学習の実施回数	新規	8回

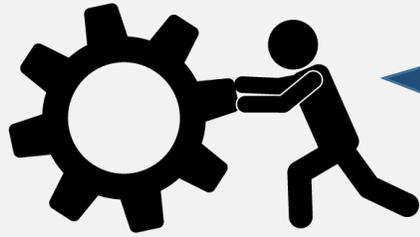
事業名 地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
 ～ Think Globally, Act from Shobara ～

事業の目標

庄原実業高等学校の進路目標		第2期庄原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年度～令和7年度（案））	
就農可能率【%】	R1 11.2 ⇒ R5 15.0	新規就農者【累計】【人】	R1 62 ⇒ R6 83以上
農業技術大学校への進学者数【人】	R1 5 ⇒ R5 7	認定農業者数【累計】【経営体】	R1 212 ⇒ R6 270以上
農業関連学部への進学者数【人】	R1 2 ⇒ R5 3	農業への参入企業数【推計】【経営体】	R1 12 ⇒ R6 15



1. 目指す姿 (2) マイスター・ハイスクール事業



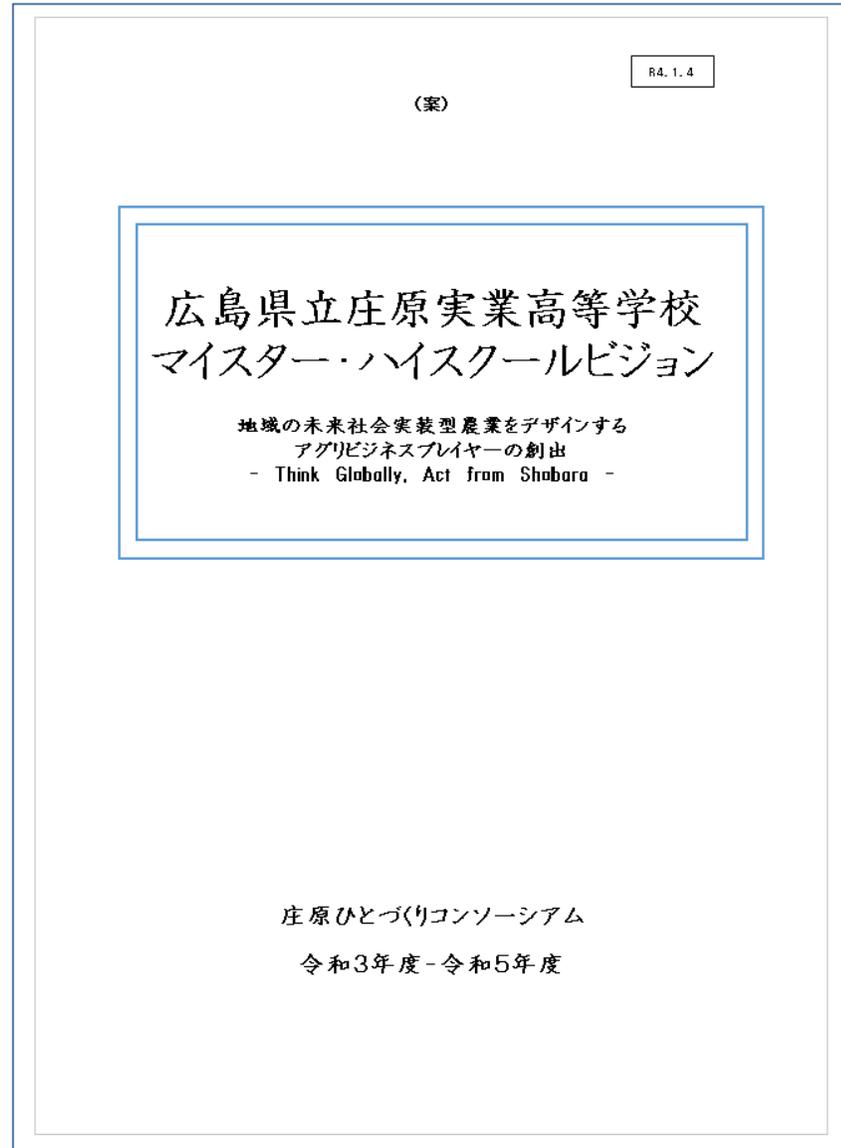
地域や社会の10年後を見据え、
高校段階で育成すべき生徒の資質・能力とは・・・

- 地域に広く貢献できる力
- **コミュニティを創る力・繋ぐ力**
- 多様なものを受入れる力
- 行動力
- **地域の良さや価値に気付く力**
- 地域や社会の課題にビジネスとしての価値を見いだす力
- 自らの手で課題を解決しようとする力
- **社会課題の解決に携わることによって価値を見いだす力**
- **経営の合理化を図る力**
- **先端技術を積極的に導入する力**
- 農作物等の6次産業化に取り組む力



社会参画力	社会貢献力
共創力	創造力
受容と共感の心	行動力
課題発見力	課題解決力
農業・農業経営に係る知識・技術	変化への対応力

1. 目指す姿 (2) マイスター・ハイスクール事業



2. 今年度の取組

- (1) 体制づくり
- (2) カリキュラムの編成, 実施等
- (3) その他

【役割】

- ・事業全般の進捗把握
- ・校内の情報共有体制の構築に係るマネジメント
- ・地域の人材と学校を繋ぐ
- ・取組を校外に発信する機会の提供



古川充行政書士事務所
地域経営コンサル
合同会社なるさ
代表社員 古川充 氏
(地域活性化伝道師)

【具体的な取組】

- ・外部人材の講師マッチングと学習プログラムのコーディネート
- ・外部施設にて学校の取組を発信する場の開拓
- ・地域人材のデータバンクを作成中
- ・教職員を対象とした事業実施に係るヒアリング

【取組を校外に発信する機会の提供(例)】

例年学園祭で、学習成果を披露していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一般の方に成果を披露する機会が減った。



古川CEOの交渉力で、地域の商業施設、市役所に許可をもらい、今年度の学習成果を披露するためのパネル展示の機会を設けた。

庄実Nashi（ナシ）が海を渡る

果樹園芸研究室 生物生産学科 3年
荒木帆香 児島百華 是田和希 立花愛音 横手里琉

12 つくる責任 つかう責任

はじめに

科目「農業実践研究」の経済産業省「未来の教室実証事業 2020広島LIFE-TECH ACADEMY」の中で庄実市の果樹生産者の所得向上につなげる取組が必要だと考え、本校のナシ（おさゴールド）の海外輸出を目指した。

結果

ASIAGAPver. 2.1および「安心！広島ブランド」特別栽培農産物認証を取得し、香港にナシ100kgを輸出することができた。JAへの販売価格は5kg箱あたり2,700円であった。そのナシはオンライン販売にて完売し、現地の販売員から高評価を得た。海外輸出までの手順や結果、費用について知ることができた。また取組を広くPRできた。

写真7 TSSテレビ放映

実施内容

- (1)場所 本校果樹園芸農場
- (2)対象品目 ニホンナシ（おさゴールド）
- (3)認証取得
 - ①ASIAGAP ver2.1認証
 - ②「安心！広島ブランド」特別栽培農産物認証
- (4)JA広島果実連・JA庄原との商談（販売先・販売量などの決定）

写真1 GAP審査の様子

写真2 商談の様子

- (5)収穫・調整

写真3 箱詰めしたナシ

写真4 出荷の様子
- (6)香港での販売

写真5 香港

写真6 通販サイト

輸出経費・販売額・純利益

- ・資材費（輸出用箱、トレイ、ネット、荷造り用テープ、ゴム印など）
= 50,988円
- ・運送費（神戸内青果センターまで）
= 14,100円
- ・市場、農協手数料 = 4,487円
- ・販売額
2,700円/5kg × 20箱 = 54,000円

【差し引き】 **マイナス15,575円**

考察

生産者が直接、海外の販売先を見つけることは難しい。JAを通すとそれをクリアできるが、現地で販売するまでには仲卸業者を通すため、コストが掛かり、生産者の所得向上にはつながりにくいと考えられた。しかし、販路の拡大や農場のPRIには効果的である。

【役割】

- ・園芸作物の生産に関する指導
- ・最先端の農業機械のデモンストレーション
- ・農業経営に係る指導
- ・ドローンの活用に係る指導



産業実務家教員

株式会社vegeta

代表取締役 谷口 浩一 氏

【具体的な取組例】

- 1 生物生産学科 第1学年対象
科目「生物生産学基礎」(学校設定科目)
2単位
野菜部門
- 2 生物生産学科 第2学年対象
科目「農業実践研究」(学校設定科目)
6単位(うち2単位)
野菜部門

産業実務家教員による実習



令和3年10月11日(月)

生物生産学科1年 科目「生物生産学基礎」



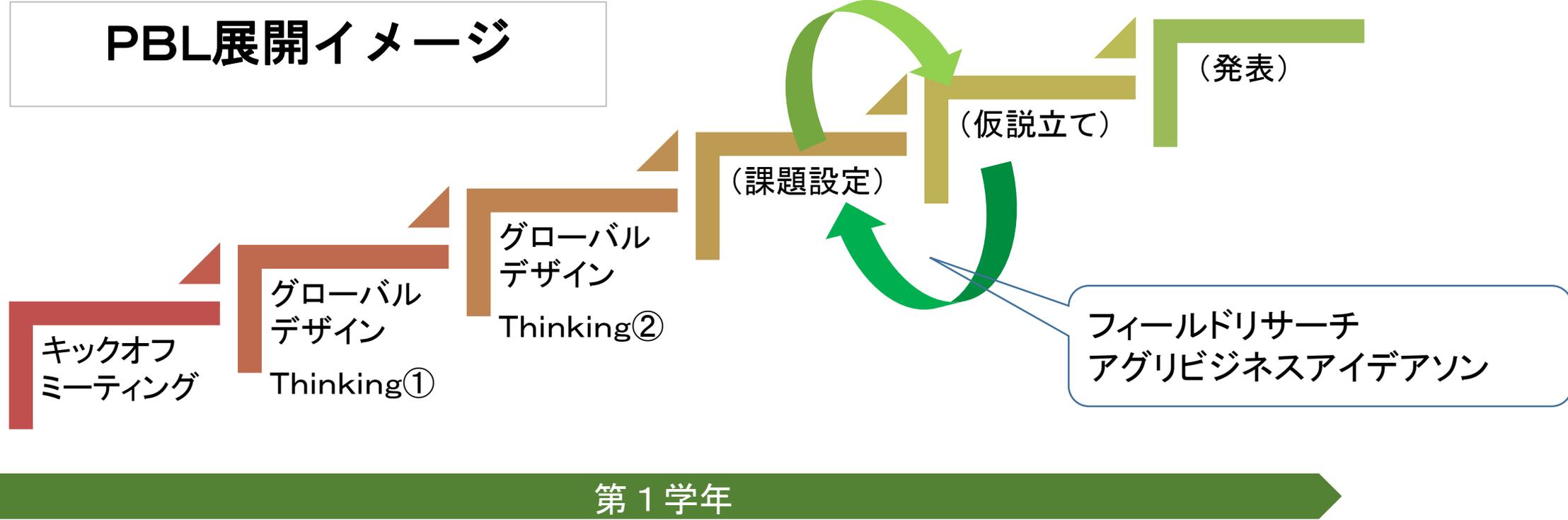
産業実務家教員による実習



和3年10月8日(金) 生物生産学科2年 科目「農業実践研究」

「未来思考型PBL」とは

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーに必要な資質・能力を育成するための6つの学習プログラム

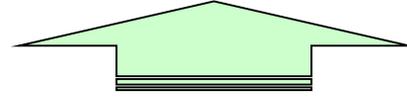


2. 今年度の取組（2）カリキュラムの編成、実施等 ①コアとなる科目

学習プログラム		対象学年	学習目標	内容・方法
I	キックオフミーティング	全学年 教職員	これから始まるプロジェクトに対する興味・関心を高めることができる。	講演 外部講師
II	グローバルデザインThinking	1年	デザイン思考により自分と世界と地域を繋ぐことができる。	演習・協議 外部講師
III	フィールドリサーチ	1年 2年	地域のリアルな課題を発見することができる。	現地調査 オンラインリサーチ
IV	アグリビジネスアイデアソン	1年 2年	プロジェクト仮説の妥当性を検討することができる。	発表 メンターによる助言
V	STEAM×PBL	3年	教科等横断的な視点でプロジェクトを遂行することができる。	普通教科と専門教科 のコラボ授業
VI	アグリビジネスコンペティション	3年	プロジェクトの社会実装化に向けて必要な要素を理解することができる。	発表 メンターによる助言

2. 今年度の取組（2）カリキュラムの編成、実施等 ①コアとなる科目

育てたい生徒像



第1学年

第2学年

第3学年

専門教科

農業と環境

グローバルデザインThinking

フィールドリサーチ I

キックオフミーティング

特別活動

普通教科

専門教科

各種資格講習会

学校農業クラブ
活動等

デュアル派遣実習

インターンシップ

農業実践研究

フィールドリサーチ II

アグリビジネスアイデアソン

普通教科

特別活動

専門教科

各種資格講習会

学校農業クラブ
活動等

デュアル派遣実習

インターンシップ

課題研究

STEAM × PBL

アグリビジネスコンペティション

普通教科

特別活動

2. 今年度の取組（2）カリキュラム編成，実施等 ①コアとなる科目

別紙様式1

令和3年度入学者に係る教育課程(帯表)

校番91 学校名 広島県立庄原実業高等学校 全日制課程 本校

学年	学科 / 単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
一 年	生物生産学	国語総合				地理A			数学I			生物基礎	体 育			保 健	芸術 (音楽I) (美術I) (書道I)	コミュニケーション英語I			家庭基礎	社会と 情報	農業と環境				生物生産学 基礎	ホーム ルーム 活動	生物生産学 基礎(外)				
	食品工学											化学基礎															食品工学 基礎(外)						
	環境工学											化学基礎															環境工学 基礎(外)						
	生活科学											生物基礎															生活科学 基礎(外)						
学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
二 年	学科 / 科目	共通科目															専門科目										選択ア※		ホーム ルーム 活動	農業実践研 究(時間割 外)			
	生物生産学	園芸流通 動物生産	現代文B				世界史A			数学A			化学基礎	体 育	保 健	英語表現I			野菜		果樹	農業経営	数学II	コミュニケーション英語II	草花園芸								
	食品工学	生物工学 食品製造											生物基礎						畜産		衛生管理 技術		食品製造										
	環境工学	環境開発 環境保全											物理基礎						食品製造	微生物利用	食品化学	食品製造	食品流通										
	生活科学	生活文化 生活福祉											化学基礎							農業測量	農業土木 設計	農業土木 施工	水循環										
																			生物活用	フード デザイン	ファッション造形基礎	社会福祉 基礎	生活支援 技術										
																			森林科学	林産物利用	森林経営												
													生物活用						フード デザイン	ファッション造形基礎	社会福祉 基礎	生活支援 技術											
学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
三 年	学科 / 科目	共通科目										選択ウ		専門科目										選択イ※		ホーム ルーム 活動	農業実践研 究(時間割 外)						
	生物生産学	園芸流通 動物生産	現代文B			現代社会			数学B			地学基礎	体 育	英語演習	国語演習 日本史A 総合数学 物理 化学 生物 英語表現演習 情報処理			野菜		果樹		農業経営	数学II	コミュニケーション英語II	草花園芸								
	食品工学	生物工学 食品製造										物理基礎						畜産		化学分析 技術	食品製造		食品製造	食品流通									
	環境工学	環境開発 環境保全										生物基礎						食品製造	微生物利用	食品化学	食品製造	食品流通											
	生活科学	生活文化 生活福祉										地学基礎							農業測量	農業土木 設計	農業土木 施工	水循環											
																		環境科学	農業測量	農業土木設計	農業土木 施工	水循環											
																		森林科学	林産物利用	森林経営													
												生物活用						フード デザイン	生活実務	食品加工	ドレスメイキング												
				生物活用	フード デザイン	生活実務	生活と 看護	社会福祉 基礎	生活支援 技術																								

※選択ア及び選択イにおいて、ジェネラリストタイプ(Gタイプ)は数学II及びコミュニケーション英語IIを、スペシャリストタイプ(Sタイプ)は専門科目を選択する。

「未来志向型PBL」に係る学習プログラムの実施状況

今年度は，学習プログラムⅠ～Ⅳを次のとおり実施した。

- 対象生徒：第1学年全学科

（生物生産学科・食品工学科・環境工学科・生活科学科）

- 対象科目：「農業と環境」4単位の内40時間

※生徒所有ノート型PCを活用

※ワークシートやオンライン協議は全て，Google Workspace上で実施。

学習プログラムⅠ キックオフミーティング

【目的】

全教職員・全生徒が本事業のねらいを共有し、未来を創造するのは自分達であるという自覚を促し、未来思考型PBLを推進するためのきっかけとする。

【目標】

デジタル技術を活用して世界の課題解決に取り組むインテルが描く未来を知り、自分自身が未来を創る当事者であるという自覚を持ってPBLに取り組もうとする姿。

【方法】

講師：インテル(株)パートナー事業部第二事業部
セールス・マネージャー 小倉 絵里名氏



学習プログラムⅡ グローバルデザインThinking

【目的】 デザイン思考により自分と世界, 世界と地域を繋ぐ。

【目標】 「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いに対して, 地域の課題解決が世界の課題解決にも結びついていることに気付き, そこから自分自身とそれらの関わりについて考え, 課題を身近な出来事に置き換えることができる。

【方法】 外部講師 プロノイア・グループ(株)シニアコンサルタント 星野 珠枝氏(オンライン)



授業スライド



自分を知る



他者と意見を共有する

学習プログラムⅢ フィールドリサーチ

【目的】 地域のリアルな声に耳を傾け，地域の課題と自身のキャリアビジョンを結び付ける。

【目標】 ・地域の課題を見つける中で，自分の興味・関心に気付くことができる。

・ICTを活用して多角的に情報収集することができる。

・事前アポイントメント，インタビューにおいて主体的に準備・実践することができる。

【方法】 現地調査，オンラインリサーチ



フィールドリサーチの様子 生活科学科



フィールドリサーチの様子 生物生産学科



学習プログラムⅣ アグリビジネスアイデアソン

【目的】

生徒が見つけた地域の課題とその解決に向けたアプローチをまとめ、外部講師に向けて発表する。生徒は、外部講師から指摘や助言を得て、よりリアルな研究課題に練り上げる。

【目標】

- ・自分達が見つけた課題とその解決案をまとめ、発表することができる。
- ・外部講師からの問いに答えるため、関連する知識や技術をまとめることができる。
- ・外部講師から専門的な知識や技術を聞き出すための問いを立てることができる。

【方法】

生徒が見つけた研究課題に対して、外部講師（メンター）が指導・助言を行う。

4学科（全26テーマ） × 外部講師4名 = 外部講師16名

※ 内「庄原ひとづくりコンソーシアム」に属する委員9名）

※ 外部講師への依頼は、マイスター・ハイスクールCEOが中心となり行った。

アグリビジネスアイデアソンの様子



各学科4名の講師を招聘
マイスター・ハイスクール運営委員2名
学科特性に合わせた専門の講師2名

アグリビジネスアイデアソンの様子



【授業展開】

実施時間：2時間（50分×2コマ）

発表時間：約10分

質疑やアイデア：約10分

2. 今年度の取組（3）その他

管理機関の支援

1

マイスター・ハイスクールCEO, 産業実務家教員の任用

2

マイスター・ハイスクールビジョンの策定に係る協議

3

マイスター・ハイスクール運営委員会・事業推進委員会の開催

4

コアメンバー会議の開催

5

その他の支援

2. 今年度の取組（3）その他

コアメンバー会議の開催

《ねらい》

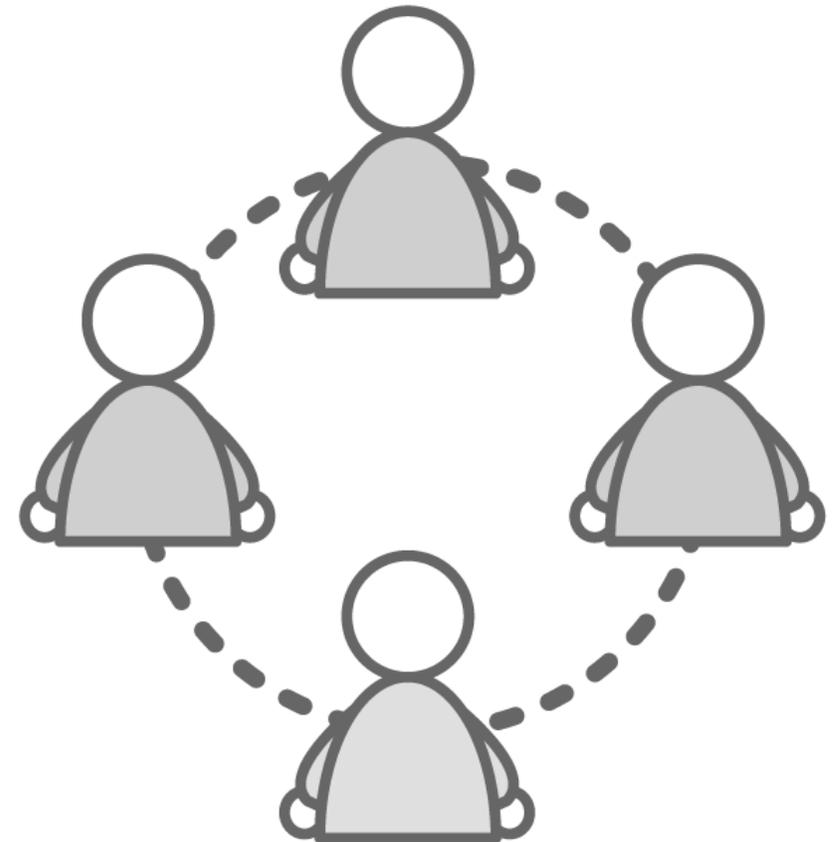
指定校，マイスター・ハイスクールCEO，産業実務家教員，管理機関による情報共有のための会議

《内容》

- ・ 事業の進捗管理
- ・ 取組毎の成果と課題の共有
- ・ 新たな知見の共有
- ・ CEO，産業実務家教員の悩みや気づきを共有

《実績》

- ・ 今年度10回実施
(内，数回伴走者も出席)



2. 今年度の取組（3）その他

県教育委員会HPによる情報発信

《ねらい》

マイスター・ハイスクール事業の取組や成果等について報道関係機関や県民に伝え、普及を図る。

《内容》

- ・ 事業採択について
- ・ マイスター・ハイスクールCEO，産業実務家教員の任用について
- ・ キックオフ・ミーティングの開催について

《実績》

- ・ 今年度2回発行



2. 今年度の取組（3）その他

広島県教育委員会 NEWS RELEASE

広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現

報道提供資料
令和3年9月16日
課名 高校教育指導課
担当者 主査 中村 幸子
内線 4998
電話 082-513-4998

庄原実業高等学校が、文部科学省「マイスター・ハイスクール （次世代地域産業人材育成刷新事業）」に採択されました！

地域産業の担い手を育てる「マイスター・ハイスクール事業」（文部科学省委託事業）の指定を受けた庄原実業高等学校に、「マイスター・ハイスクールCEO」と「産業実務家教員」が新たに配置されました。学校と産業界、地元自治体が一体となって、地域に貢献し次世代に対応できるクリエイティブな職業人材を育みます。

1. マイスター・ハイスクール事業の概要

成長産業化に向けた革新を図る産業界と専門高校が一体・同期化し、第4次産業革命・地域の持続的な成長を牽引するため、絶えず革新し続ける最先端の職業人材育成システムを構築する。

2. 庄原実業高等学校における取組【※別紙参照】

事業名

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
～ Think Globally, Act from Shobara ～

3. 実施主体

管理機関		
庄原市	庄原商工会議所	広島県教育委員会

4. マイスター・ハイスクールCEO及び産業実務家教員

マイスター・ハイスクールCEO：古川 亮さん



【所属・役職】
古川亮行成會士事務所 代表
合同会社なるさ 代表社員
地域活性化伝道師（内閣府所屬）

《専門分野》
・一般社団法人・株式会社・合同
会社・農業法人等設立支援
・事業経営計画支援
・小規模事業者の新規創業支援
・集落創生・再生方策
・進の駅を活かした観光地域
方策

産業実務家教員：谷口 浩一さん



【所属・役職】
農地所有者連絡法人
株式会社 yaguta 代表取締役

《主な実績等》
「2020 広島県農林水産業チャレ
ンジプラン・アクションプログラ
ム」により、積極的にキャベツ団
地に入城、県内800箇所、約120ha
のキャベツ畑を有する。
近年では「スマート農業」に取
り組み、収穫時期や収量のデータ
化、ドローンを活用した畑の見回
りや生育状況の判断を実施して
いる。

※ マイスター・ハイスクールCEO：職業人材育成システムを構築し、事業の実行を統括する。

※ 産業実務家教員：最先端の技術・知識等を活用した授業を実施する。

広島県教育委員会 NEWS RELEASE

広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現

報道提供資料
令和3年12月1日
課名 高校教育指導課
担当者 主査 中村 幸子
内線 4998
電話 082-513-4998

12月7日（火）実施

庄原実業高等学校で文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」 キックオフミーティングを開催します！！

庄原実業高等学校は、「マイスター・ハイスクール事業（次世代地域産業人材育成刷新事業）」の指定を受け、地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出に向けた、魅力ある学習プログラムを開発しています。

今回、インテル株式会社の協力により、最先端の情報機器を活用した「未来思考型PBL」の充実を図るためのキックオフミーティングを実施することとなりました。

◇ 文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」のキックオフミーティングの実施について

(1) キックオフミーティングの趣旨

デジタル技術を活用して世界の課題解決に取り組むインテル株式会社が、どのような未来を描いているかについて、庄原実業高等学校の生徒を対象に講演をしてもらいます。生徒一人一人が、未来を創る当事者であるという自覚を持ち、今後のPBLを推進するためのきっかけとします。



庄原の未来について外部講師に発表

(2) 講師等

インテル株式会社 パートナー事業本部第二事業部
セールス・マネージャー 小倉 絵里香氏
演題 「これからの社会をつくるために」

(3) 日時

令和3年12月7日（火）11時00分～12時00分

(4) 場所

広島県立庄原実業高等学校 体育館
（庄原市西本町一丁目24-34）



MEDIAspace での学び

◇ インテル株式会社との連携協定について

広島県教育委員会とインテル株式会社は、「学びの変革」の推進を図り、子供たちの資質・能力、情報活用能力を育成するための協定を結んでいます。その一環として、今年度、庄原実業高等学校の「マイスター・ハイスクール事業」を推進するため、作業用MEDIAspace作りに御協力いただきました。



今回の講演イメージ

※取材にお越しの際は、予めお問い合わせください。

2. 今年度の取組（3）その他

ICT機器の充実によるPBLの充実

《ねらい》

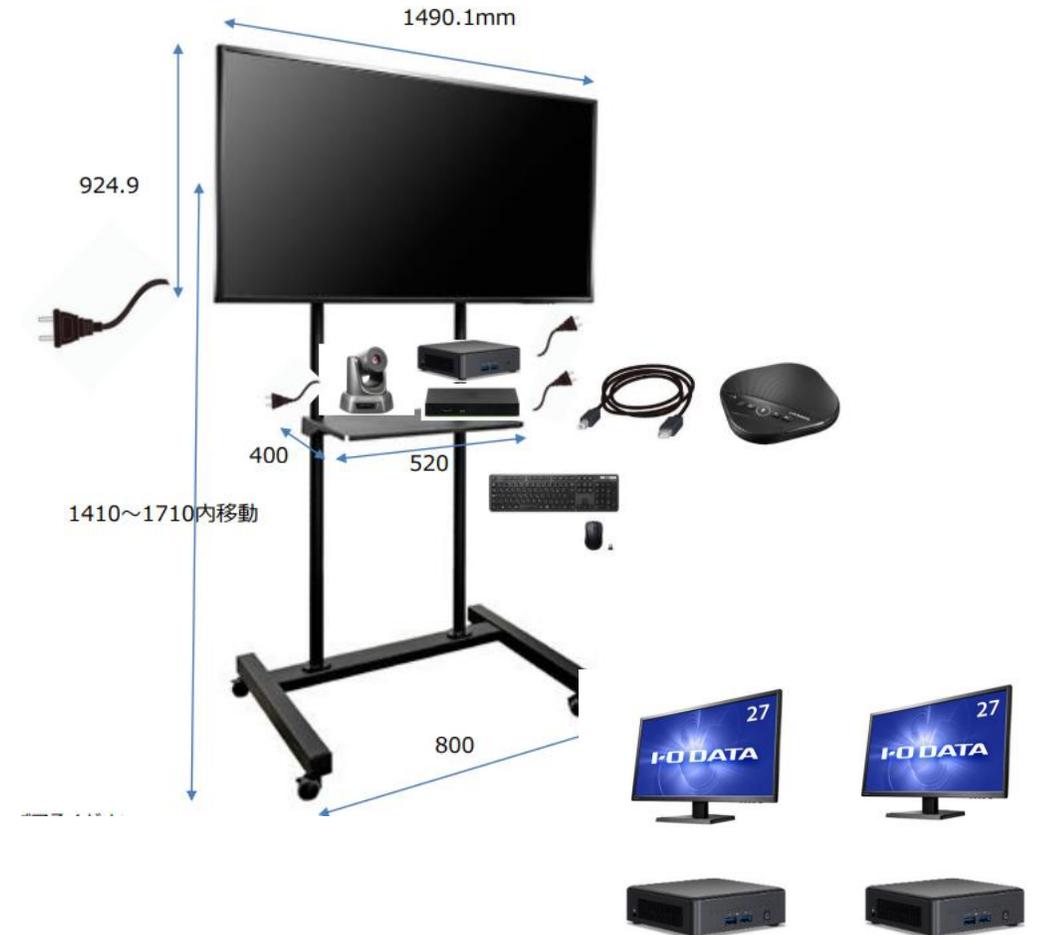
県教育委員会とインテル（株）との協定によるMEDIA - spaceの創出。情報の分析・リサーチ・情報発信のコンテンツの製作などが行える作業用端末を整備し，未来志向型PBLの充実を支援する。

《内容》

- ・ 大型ディスプレイ2台
- ・ 27型4Kディスプレイ4台
- ・ ハイエンドPC2台，ミドルエンドPC2台 など

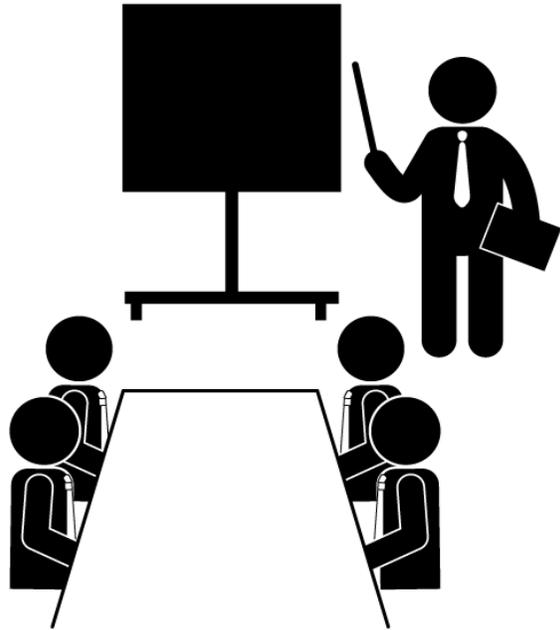
《実績》

- ・ 環境工学科におけるドローンを活用した3D測量
- ・ 全学科におけるフィールドリサーチ等に活用



2. 今年度の取組（3）その他

知事部局と連携し農業経営に係る研修の機会を提供



農場作業員の加配措置



スマート専門高校による施設・設備の充実



3. 成果と課題

- (1) 学習プログラム
- (2) 事業評価

3. 成果と課題 (1) 学習プログラム

学習プログラム I～IVの成果

「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いに対して、学習プログラム I～IVを通してたどり着いた生徒の考え。

(一部抜粋)

生物生産学科	<ul style="list-style-type: none">○環境に優しい方法で生産した庄原産のキャベツを広めることを目指します○地域の資源を生かしておいしい米づくりを広めていく
食品工学科	<ul style="list-style-type: none">○天然酵母を使って、庄原をイメージしたパンを作る○庄原の特産物を使った商品開発「庄原と言ったらこれ！」というものを作る
環境工学科	<ul style="list-style-type: none">○自然を生かしたテーマパーク○空き家利生，農業高校カフェ
生活科学科	<ul style="list-style-type: none">○野菜紙芝居で知ってもらう農業○かわいい作業服で農業女子を増やす

3. 成果と課題 (1) 学習プログラム

学習プログラム I ~ IV の成果

学習プログラム I ~ IV 終了後の生徒の感想。 (一部抜粋)

10年後どうなっているのか？どうありたいのか。
という考え方が印象に残った。なぜかというと、
今のことだけ考えていると将来につながらないし、
しっかり目標を立てていると達成した時の達成
感が得られるし、実現しやすいから。

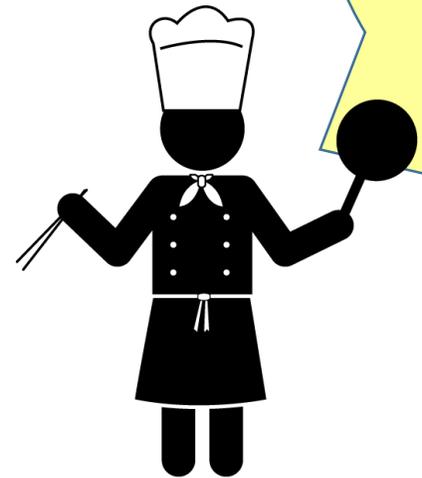


3. 成果と課題 (1) 学習プログラム

学習プログラム I ~IVの成果

学習プログラム I ~IV終了後の生徒の感想。 (一部抜粋)

庄原の中で何かを開発するなら、アップルパイ！とかではなくて、誰も考えたことの無いもので魅力的なもの？(今までないもの)を考えないといけないと思う。というのが印象に残った。なぜかという、確かにアップルパイを作っても、高野にはもう何個かあったりして、私たちが作るとしても何か魅力がないと買おうとは思わないなと思ったからです。だから、作るなら、「実業の〇〇アップルパイ！」とか、買いたくなるようなものを作りたいと思いました。



- 農業の専門科目「農業と環境」の「プロジェクト学習」に係る単元を拡大して「未来思考型 P B L」（40単位時間）を実践したが、農業や普通教科の基礎的・基本的な知識の習得が十分で無い中での活動となった。そのため、問いを考えたり、課題を深掘りしたりする時に、知識不足を感じさせる場面があった。
- 生徒が見つけた研究課題を2年次の「農業実践研究」へ接続し、3年次の「課題研究」へ発展させることを考えると、2年次の類系選択と研究テーマがマッチしないものが出てくる。2年次の類系選択に向けての仕掛けを1年次の学習プログラムとどのように連動させていくかが課題である。

3. 成果と課題 (2) 事業評価

事業計画書に基づく事業評価

アウトカム評価	アウトカム評価		アウトプット評価	アウトプット評価	
	目標値	実績値		目標値	実績値
アグリマイスタープラチナ取得者数	4名 以上	2名	シラバスの改訂科目数	全学科	19科目
			産業実務家教員の指導時間数	100時間 以上	40時間
マスタールーブリックで評価A以上の生徒	80%	検証中	外部講師の講話時間数	20時間 以上	105 時間
			教科等横断的な授業の指導案数	5つ	6つ
FFJ検定上級取得者数	40%	55.7%	外部機関との協働研究数	各学科1 テーマ以上	9つ
キャリアノートにおける記述から資質・能力の肯定的変容が見られる生徒の割合	90%	検証中	時間割外実習において管理実習以外の探究活動を実施した回数	10回	検証中

3. 成果と課題 (2) 事業評価

事業計画書に基づく事業評価

その他の評価指標	目標値	実績値
	就農可能率 ※卒業予定者に対する将来就農する意欲を持って進学・就職等した生徒の割合	15% 以上
広島県立農業技術大学校への進学者数	7名 以上	1名
農業関連学部への進学者数 ※将来就農する意欲を持って進学した生徒の数	3名 以上	4名

※ 今年度の実績値はR3年度卒業予定者の現段階での数値であり、年度末までに変動する可能性がある。

3. 成果と課題 (2) 事業評価

その他の評価項目

	質問項目	回答(%)
既存のアンケートにより見取る項目 (R2実績値)	「地域に関する学習や活動を行うことで、地域の良さに気付くことができる」と回答した生徒の割合	85.4
	「将来、身近な地域に貢献したいと思う」と回答した生徒の割合	68.4
	「県北地域の良さや価値が分かる」と回答した生徒の割合	76.6
	「県北地域の課題を理解している」と回答した生徒の割合	72.2
新たに追加したアンケートにより見取る項目 (R3実績値)	「将来、県北地域の農業を成長させるためのアイデアがある」と回答した生徒の割合	27.6
	「将来、自分自身で県北地域の課題解決に貢献することができる」と回答した生徒の割合	35.7
	「10年後の未来を想像することができる」と回答した生徒の割合	46.2
	「自分の力で未来を創ることができると思う」と回答した生徒の割合	43.0

4. 次年度に向けて

4. 次年度に向けて

教育課程の刷新	<ul style="list-style-type: none">● 学習プログラム, 産業実務家教員, 校外実習等の授業において, 授業デザインシートの作成を定着させ, 目標と指導と評価の一体化を図る。● 基礎的・専門的な知識・技術の習得と汎用的な資質・能力の習得の適時性, 時間配分に関する検討。● 教職員のファシリテート力, コーチング力の向上。
校内体制・学校文化の構築	<ul style="list-style-type: none">● 産業実務家教員活用のねらいと生徒に身に付けさせたい力とを整理した年間指導計画を作成する。● 1年次から2年次の類系選択に向けた仕組みづくり。● 情報や取組を校内で共有するための仕組みづくり。● マスタールーブリックと各種取組の系統性の整理。● 各種評価計画の作成。
庄原ひとづくりコンソーシアムの構築	<ul style="list-style-type: none">● 共同研究, 共同施設利用の充実に関する検討。● 中学・高校・大学等・地域と一体化したキャリア形成モデルに係る検討。● 学校の取組に対する支援の適時性に関する協議。● 育成を目指す資質・能力を育むための教育課程に係る協議。



~ Think Globally Act from Shobara ~